
健康社会研究センター ニューズレター 第 38 号

2015. 7. 15 発行

◆ 目次 ◆

1 お知らせ

- ・ World Health Summit : Kyoto で JAGES 共催シンポジウムが開催されました。
- ・ 日本医学会総会で JAGES 代表・近藤先生が「健康格差」について講演いたしました。
- ・ 震災シンポジウム with カワチ先生が開催されました。
- ・ 日本疫学会が開催されました。
- ・ JAGES 内ライフコース WG が始動しました。
- ・ 11/29-30 ハーバード大学のイチロー・カワチ先生をお招きしたセミナーが開催されました。
- ・ 公衆衛生学会が開催されました。
- ・ 200 自治体ベンチマーク報告書が完成しました。

2 主な研究成果発表

3 研究費採択のお知らせ

1. 最新のお知らせ

<World Health Summit: Kyoto で JAGES 共催シンポジウムが開催されました>

2015 年 4 月 13 日・14 日の 2 日間、京都にて World Health Summit が開催され、世界中から公衆衛生、疫学、医学関係の研究者が集まりました。「ソーシャル・キャピタルと健康寿命」と題して、ハーバード大学の Ichiro Kawachi 先生、JAGES から近藤克則先生、相田潤先生、白井こころ先生、引地博之先生が表題に関する発表をいたしました。シンポジウム後の質問では、「国際比較をする際の統一的なソーシャルキャピタルの定義の有無」に関するものや、「震災後のレジリエンスに行政のアプローチはどう関わるか」などが挙げられ、今後の研究課題についても有意義な議論がなされました。

<日本医学会総会で JAGES 代表・近藤先生が「健康格差」について講演いたしました>

2015 年 4 月 11 日～13 日、京都にて 4 年に一度の日本医学界最大の学会、日本医学会総会が 8 年ぶりに開催されました。4 月 13 日午前中のシンポジウム「健康格差社会の是正を目指して」にて、JAGES 代表の近藤克則先生(千葉大学)が「格差指標から見た我が国の水準」と題して講演されました。

<震災シンポジウム with カワチ先生が開催されました>

2 月 15 日(日) 東京国際フォーラム「災害とソーシャル・キャピタル」シンポジウム

「災害下のソーシャル・キャピタルと健康」 Ichiro Kawachi(ハーバード大学教授)

「災害復興に向けたソーシャル・キャピタル醸成のための環境整備」 近藤 尚己(東京大学准教授)

「東日本大震災後の健康とソーシャルキャピタル」 相田 潤(東北大学准教授)

「東日本大震災被災地における地域の結びつきと PTSD」 引地 博之(千葉大学特任助教)

「災害とソーシャルキャピタル:実験経済学・行動経済学の見地から」 澤田 康幸(東京大学教授)

<日本疫学会が開催されました>

2015 年 1 月 21 日～23 日の 3 日間、愛知県名古屋市ウインクあいちにて日本疫学会が開催されました。JAGES からは 9 演題が発表されました。

<JAGES 内ライフコース WG が始動しました>

日本福祉大学の齊藤雅茂先生により 10-13 コホートを、東京大学の谷友香子先生、千葉大学の佐々木由理先生により 10-13 パネルを作成していただいたことにより、2010、2013 年調査票に盛り込まれましたライフコース関連の分析が可能となりま

1月20日、初めてのライフコースWGが開催され、今後の論文作成のミーティングが行われました。今後も活発な議論が行われる予定です。

<11/29-30 ハーバード大学のイチロー・カワチ先生をお招きしたセミナーが開催されました>

おかげ様をもちまして「健康と社会セミナー」は、多数の方々にご参加いただき大いに盛り上がりました。

11月29日SDHセミナー参加者374人、30日JAGESワークショップ参加者約60人、12月1日も約40人の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

<公衆衛生学会が開催されました>

2014年11月5日～7日の3日間公衆衛生学会が開催されました。JAGESからはシンポジウム、一般演題(口演)(ポスター)へ合計15演題が発表され、様々な角度から研究成果をフィードバックできるようになってまいりました。「主な研究成果発表」の項で各自の演題を掲載しております。

<200自治体ベンチマーク報告書が完成しました>

昨年度より全国108の自治体の皆様とともに行ってまいりました。日常生活圏域ニーズ調査の情報から地域間比較を行い、各自治体の課題を明確にするための地域診断書を作成しました。得られた知見につき、各自治体の皆様向けに報告書を作成し、配布させていただきました。今後ともご支援賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

2. 主な研究成果発表

<論文等>

- ① Ito K, Aida J, Yamamoto T, Otsuka R, Nakade M, Suzuki K, Kondo K, and Osaka K: Individual- and Community-level Social gradients of Edentulousness. BMC Oral Health; 2015;34 (doi:10.1186/s12903-015-0020-z, 2015.03.11 published online first).
- ② 鈴木佳代・近藤克則(2015)「自治体との共同による大規模調査: JAGES2013年度調査の概要と工夫」『社会と調査』第14号:64-69
- ③ 齊藤雅茂, 近藤克則, 尾島俊之, 平井寛: 健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討: 10年間のAGESコホートより. 日本公衆衛生雑誌. 62(3):95-105, 2015
- ④ Hikichi, H., Kondo, N., Kondo, K., Aida, J., Takeda, T., & Kawachi, I. Effect of community intervention program promoting social interactions on functional disability prevention for older adults: propensity score matching and instrumental variable analyses, JAGES Taketoyo study. Journal of Epidemiology and Community Health. in press.
- ⑤ 近藤克則: [特別寄稿] 健康の社会的決定要因と医療経済・政策学. 医療経済研究. 26(2):81-99, 2014
- ⑥ Kondo, N., et al. (2015). "Relative deprivation in income and mortality by leading causes AMONG older Japanese men and women: AGES cohort study." *J Epidemiol Community Health* doi:10.1136/jech-2014-205103
- ⑦ Koyama Shihoko, Aida Jun, Kawachi Ichiro, et al. Social Support Improves Mental Health among the Victims Relocated to Temporary Housing following the Great East Japan Earthquake and Tsunami. The Tohoku Journal of Experimental Medicine 2014; 234: 241-7
- ⑧ 引地博之, 近藤克則, 相田潤, 近藤尚己: 集団災害医療における「人とのつながり」の効果—東日本大震災後の被災者支援に携わった保健師を対象としたグループインタビューから—. 日本集団災害医学会誌, 査読あり, 印刷中
- ⑨ 宮國康弘, 近藤克則. 日本の高齢者14万人調査から見てきた健康格差. 保団連 2014;1174:4-10

<学会発表等>

- ① K. Kondo: Social Connectedness and Healthy Aging. In Symposium at World Health Summit Regional Meeting Asia, Kyoto, 14 April 2015
- ② 近藤克則: 格差指標からみた我が国の水準. 企画4「健康格差社会の是正を目指して」. 第29回日本医学会総会, 国立京都国際会館, 京都, 2015. 4. 13

- ③ 芦田登代「東日本大震災被災地における個人の選好と健康:Convex Time Budget(CTB)法による分析」. 第8回行動経済学会、2014年12月7日、慶應義塾大学三田キャンパス
- ④ 齊藤雅茂:高齢者の社会的孤立をめぐる知己福祉実践の評価と課題. 日本社会福祉学会第62回秋季大会「国際シンポジウム リスク社会に向けた社会福祉の展望」2014.11.30, 早稲田大学 早稲田キャンパス井深大記念ホール
- ⑤ 鈴木佳代「高齢者女性のライフコースにおける就労と地域集団参加」
第87回日本社会学会年次大会報告、2014年11月23日、神戸大学文理農学部キャンパス

日本疫学会口演(1/21-1/23@愛知県名古屋市)

- ⑥ Toyo Ashida,Naoki Kondo,Maho Haseda,Kastunori Kondo,JAGES project. What health measures show large disparity by income levels?:prioritizing the targets of long-term care prevention. (講演集:O2-10)
- ⑦ Kastunori Kondo,Masashige Saito,Jun Aida,Naoki Kondo,Toshiyuki Ojima,JAGES project. The Development of benchmark system for health disparities in healthy aging in Japan:JAGES HEART.(講演集:O2-11)
- ⑧ Kokoro Shirai,Hiroyasu Iso,Takeo Fujiwara,Jun Aida,Hiroshi Hirai,Toshiyuki Ojima,Kastunori Kondo. Social capital and participation in health screening in the community:the AGES project.(講演集:O5-16)
- ⑨ Miyo Nakade,Tastuo Yamamoto,Jun Aida,Kokoro Shirai,Kastunori Kondo,Hiroshi Hirai,Naoki Kondo,JAGES Group. Under-and overweight and the onset of long-term care needs due to cognitive impairment:analysis of JAGES cohort data.(講演集:O6-10)
- ⑩ Yuri Sasaki,Yasuhiro Miyaguni,Yukako Tani,Yuiko Nagamine,Hiroyuki Hikichi,Tami Saito,Kazuhiro Kakimoto,Kastunori Kondo. Depressive symptoms and hobbies among elderly people at the community level.(講演集:O6-16)
- ⑪ Maho Haseda,Naoki Kondo,Toyo Ashida,Yukako Tani,Kastunori Kondo. Community factors associated with income-based inequality in depressive symptoms among older adults.(講演集:O6-17)
- ⑫ Yukako Tani,Naoki Kondo,Yuri Sasaki,Maho Haseda,Kastunori Kondo. Joint effect of eating alone and cohabitation status on depressive symptoms among older women and men:The JAGES survey.
(講演集:O6-18)
- ⑬ Koichiro Shiba,Naoki Kondo,Kastunori Kondo. The Differential Effect of Informal and Formal Social Support on Reducing Caregiver Burden-AGES Caregiver Survey-.(講演集:O9-18)
- ⑭ Yasuhiro Miyaguni,Kayo Suzuki,Masataka Nakagawa. Community level sports organization and physical function decline:multilevel analysis.(講演集:O10-05)

第73回公衆衛生学会(11/5-11/7@宇都宮)

..シンポジウム..

- ⑮ 健康影響予測評価(health impact assessment)と地域保健:理論と実践
座長:近藤尚己(東京大学大学院医学系研究科健康教育・社会学分野)
- ⑯ 包括的健康評価体系(NHI)設計とその公衆衛生学活動実装に向けての試み
「高齢者における健康関連指標ベンチマークシステム実装の試み-JAGESプロジェクト」
演者:近藤克則(千葉大学予防医学センター環境健康学研究部門)
- ⑰ 多角的視点から見た自殺対策の今後の課題
「コミュニティ・アプローチによる自殺対策の可能性:JAGESプロジェクトの知見から」
演者:近藤克則(千葉大学予防医学センター環境健康学研究部門)
- ⑱ 地域保健実施におけるソーシャル・キャピタルを活用した戦略と戦術
「視覚化した健康格差情報に基づく地域づくり」
演者:近藤尚己(東京大学大学院医学系研究科健康教育・社会学分野)

..口演..

- ⑲ 引地博之:憩いのサロン参加による要介護リスクの抑制:愛知県武豊町における5年間の介入研究. 優秀演題賞選考会選出演題
- ⑳ 菖蒲川 由郷:特定保健指導の利用率と地域のソーシャルキャピタル指標との関連.

- ⑲ 芦田 登代:組織への参加が要介護に与える影響 社会経済状況の差異による検討(J)AGES プロジェクト.
- ⑳ 谷 友香子:高齢者の孤食と食事摂取頻度および Body Mass Index との関連:JAGES プロジェクト.
- ㉑ 宮國 康弘:行政区単位別の要介護リスクと社会参加の関連の違い:JAGES プロジェクト.
- ㉒ 竹田 徳則:長期コホートによる「認知症を伴う要介護認定発生」のリスク因子—AGES コホート.
- ㉓ 尾島 俊之:介護予防のための公営の住まいに関する研究:JAGES プロジェクト.
- ㉔ 佐々木 由理:高齢者のうつ傾向に関する地域相関分析.
- ㉕ 長 嶺 由衣子:高齢者の歩行時間と転倒に関する検討—JAGES 2010-2013 の比較より—.
- ㉖ 岡田 栄作:日常生活圏域ニーズ調査を用いた地域診断書の開発に関する研究:JAGES プロジェクト.
..ポスター..
- ㉗ 齊藤 雅茂:見守りボランティア活動とサロン活動の展開による地域単位での介護予防効果の可能性.

<その他>

- ① 財務総合政策研究所の「持続可能な介護に関する研究会」報告書(2015年5月)に、近藤克則先生の講演録「地域差要因と介護予防の視点から 保険・医療・介護ビッグデータの構築、活用の可能性と課題」が掲載されました。
- ② 朝日新聞社発行の週刊朝日 MOOK に、神奈川歯科大学の山本先生の記事が掲載されました。
歯科 かむことが認知症の予防に 歯を失ったら人口歯で補う. 週刊朝日 MOOK 「すべてがわかる認知症」, Part 3 予防編 認知症にならない生活習慣, 朝日新聞出版, 2015年4月10日発行
- ③ 京都新聞に「健康格差」拡大に警鐘」と題して、第29回医学会総会での近藤克則先生の発表内容が掲載されました。
2015年4月14日
- ④ 近藤克則:[Doctor's opinion]健康格差における医師の役割; Doctor's Magazine.No.187, 2015
- ⑤ 法研発行の雑誌「へるすあっぷ21」にて近藤克則先生の記事が掲載されました。
近藤克則:つながりのチカラ～ソーシャル・キャピタルと健康～ 転ばぬ先の杖の最新事実～JAGES の最新成果から～;
へるすあっぷ21. 法研, No.366, 2015
近藤克則:つながりのチカラ～ソーシャル・キャピタルと健康～ 復興にエビデンスを活かす～JAGES シンポジウムから～;へるすあっぷ21. 法研, No.367, 2015
- ⑥ 財務総合政策研究所機関誌「フィナンシャル・レビュー」に係る論文検討会議に近藤克則先生が出席しました。
論文執筆者を招き、論文発表及び意見交換等を行う会議です。JAGES 関係者からの発表:近藤克則「医療・介護における効果・質・格差の評価の到達点と課題」, 財務省内会議室, 2015年2月5日
近藤克則, 伊藤美智予:「認知症者の生活支援実態調査」結果概要報告. 医療福祉生協情報誌コムコム 568, 2014年12月

<講演・シンポジウム・研究会など>

- ① 近藤克則:ソーシャル・キャピタルと健康. 新潟大学医歯学総合病院主催 新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2015, 万代シルバーホテル(新潟市), 2015年1月24日
- ② 近藤克則:ソーシャル・キャピタルと健康—コミュニティ健康心理学の課題—. 日本健康心理学会シンポジウム, 沖縄科学技術大学院大学, 2014年11月1-2日
- ③ 近藤克則:地域診断システムの紹介. 千葉県衛生研究所にて保健師向け研修会
- ④ 近藤克則:ささえあい たすけあい まじりあいのまちづくりの先に見えるもの. 地方行政調査会 広島市役所研修会, 広島市役所, 2014年11月28日
- ⑤ 近藤克則:老年学的予防アプローチの可能性—JAGES プロジェクトの知見から. 千葉大学第2内科講演会, 2014年12月3日
- ⑥ 近藤克則:特別講演「地域差要因と介護予防の視点から保険・医療・介護ビッグデータの構築、活用の可能性と課題」財務省 財務総合政策研究所「持続可能な介護に関する研究会」, 財務省内会議室, 2014年12月5日
- ⑦ 近藤克則:保健・医療・介護ビッグデータ時代の ICT 活用の可能性と課題—JAGES の経験を踏まえて—. 一般社団法人ヘルスケアイノベーションプロジェクト ICT 医療ビッグデータ講演会, 2014年12月11日
- ⑧ 近藤克則:保健・医療・介護ビッグデータの構築、活用の可能性と課題. ASIAN AGING SUMMIT 2014 「シンポジウム VI. 医療ビッグデータがもたらす社会変革 第29回日本医学会総会2015関西 サテライトシンポジウム」, イノホール

(東京, 内幸町), 2014年11月11日

3. 研究費採択のお知らせ

- ① 研究代表者: 近藤克則 所属: 千葉大学 種類: 基盤研究(A) 期間: 平成27年度~平成29年度
課題名: 高齢者のwell-being格差の生成プロセス解明とソーシャル・キャピタルの研究
課題番号: 15H01972
- ② 研究代表者: 山本龍生 所属: 神奈川歯科大学 種類: 基盤研究(B) 期間: 平成27年度~平成29年度
課題名: 要介護, 認知症, 転倒の予防への歯科的貢献を目指した多地域大規模追跡調査
課題番号: 15H05059
- ③ 研究代表者: 芦田登代 所属: 東京大学 種類: 基盤研究(C) 期間: 平成27年度~平成29年度
課題名: 災害復興下の被災地コミュニティのレジリエンス醸成に向けた実験経済学的研究
課題番号: 15K03417
- ④ 研究代表者: 井上祐介 所属: 岡山県立大学 種類: 若手研究(B) 期間: 平成27年度~平成29年度
課題名: 要介護認定者増の要因分析と必要な介護支援体制に関する研究—被災地域を中心に—
課題番号: 15K17232
- ⑤ 研究代表者: 井階友貴 所属: 福井大学 種類: 若手研究(B) 期間: 平成27年度~平成28年度
課題名: ソーシャル・キャピタルの醸成と健康アウトカムの向上を目指した地域参加型の活動
課題番号: 15K19241
- ⑥ 研究代表者: 花里真道 所属: 千葉大学 種類: 若手研究(B) 期間: 平成27年度~平成29年度
課題名: 健康と都市構造・社会参加の連関構造の解明
課題番号: 15K18174
- ⑦ 研究代表者: 伊藤奏 所属: 埼玉県立大学 種類: 若手研究(B) 期間: 平成27年度~平成28年度
課題名: 高齢者の口腔の健康格差と社会環境要因に関する日英国際比較研究
課題番号: 15K21266
- ⑧ 研究代表者: 宮國康弘(千葉大学) 2014年度ジェロントロジー研究助成
研究課題: 「ソーシャル・キャピタルの介護予防効果に関する研究—地域レベルのソーシャル・キャピタルは、個人レベルの健康に関連があるのか—」
- ⑨ 研究代表者: 引地博之(千葉大学) 総合健康推進財団の研究助成金
研究課題「社会参加を促進する介入プログラムが高齢者の早死を防ぐ効果: 傾向スコアマッチング分析と操作変数法による検証」

ニューズレター第38号の発行にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも当センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

メーリングリストの配信の停止をご希望の方・ご意見・お問い合わせ・情報提供はこちら<p-tanaka@n-fukushi.ac.jp

(田中)>までお知らせください(ご連絡の際は*を@に変更して下さい)。

ニューズレターのバックナンバーはこちら<[バックナンバー](#)>

発行元: 健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

このメールは、国際シンポジウム「健康の社会的決定要因—社会疫学の可能性」(2009年3月14日開催)及び、「『健康の社会的決定要因』を巡る国際的動向」(2011年12月23日開催)、国際ワークショップ「社会疫学と老年学における国際共同研究の可能性」(2012年1月8日開催)にてメール登録をご希望いただいた方及びメーリングリストweb登録をいただいた方に配信しています。